

博物館の現状と地理学の役割

辰 己 眞知子*

I. はじめに

近年では首都圏に限らず多くの市町村に博物館が設立され、小さな町にも立派な博物館が建設されている。その内容は、町の歴史や特産物、その土地が生んだ偉大な人物であったり、中には履物や瓦を展示するユニークな博物館であったりと多種にわたっている。しかし、私達がそれらの博物館を利用しているかと考えてみると、日本の博物館がつまらない、退屈だという声が多く聞かれるのも事実である。そしてまた、交通の不便な所にある、展示物が貧弱である、館内が混んでいる、さらに入館料が高いなどの不評も多い。なぜ、日本の博物館や美術館が一部の限られた人にしか利用されなかったり、魅力に乏しいと感じる人が多いのであろうか。外国には大英博物館やルーブル美術館などのように多数の見学者が訪れ、しかも何度も足を運ぶ施設が多い。外国と日本の博物館との間にはどのような差異があるのだろうか。そして、それは博物館側に問題があるのだろうか、あるいは入館者側の利用目的等に問題があるのだろうか。

このような疑問について次のような立場から考察を加え、分析し解明していきたいと考えている。そして、地理学がこれまで博物館活動にどのように貢献してきたか、また今後

どの程度貢献できるのかをあわせて検討したい。

- 1) 博物館の数や利用状況などを諸外国と日本の場合と比較しながら、現状を正しく把握する。
- 2) 博物館をどのような人々が利用しているのか。また、利用者が求める博物館の理想像は何か。
- 3) 博物館活動に地理学がどのように貢献してきたか。
- 4) 地理学が今後博物館に何をすべきなのか。
- 5) 地理学博物館の設立は可能なのか。

上記のうち、1) については最新の統計資料を収集し分析する。2) についてはアンケートを実施しその結果を分析する。また、実際に海外旅行で見学した博物館・美術館の特徴をあげ、展示や利用についての相違点を日本と比較検討をする。3)、4) については多くの課題を示し、さらに5) については筆者の願望もこめて記してみたい。

なお、一般にいう博物館とは、資料の収集、保管・展示する場であると同時に、調査研究する社会教育施設である。昭和26年12月に公布された博物館法第2条第1項に、「博物館・美術館・動物園・植物園・水族館・プラネタリウム等を博物館という」と規定している。しかし、本稿で筆者が言及する博物館は、表1に示した伊藤(1978)¹⁾による種類別分類

*京都精華女子高校・非常勤講師

表1 博物館の形態別分類

種類別分類	①人文科学系（考古館、歴史館、民俗館、記念館など） ②芸術系（美術館、庭園など） ③自然科学系（天文台、プラネタリウム、理工館、自然史館など） ④生物科学系（動物園、植物園、水族館、自然公園など） ⑤複合系（総合館、郷土館など2部門以上を含むもの）
経営主体別分類	①国立 ②公立（都道府県、市町村立） ③市立（法人立、個人立） ④学校（大学、その他）
その他	野外博物館 他

(伊藤寿朗、1978より作成)

のうち人文科学系の博物館である。

II. 博物館の数と利用

(1) 世界の博物館数

最古の博物館に相当するものはB.C. 305年にアレクサンドリアに創設されたムウセイオン²⁾だとされている。中世になると王家や教会が財宝を収蔵していたが、博物館という形の最初のもは、1471年創設されたローマにあるカピトリノ美術館である。産業革命以後は自然科学系のものに関心もたれるようになり、動物園、植物園なども各地で創設された。さらに19世紀後半の殖産興業に伴う万国博覧会開催³⁾以後続々と博物館が建設された。

ユネスコの協力機関であるICOM（国際博物館会議）による1990年度の世界の博物館・美術館の数は英国を含む全ヨーロッパに約13,500、北アメリカ約7,000、アジアとオーストラリアに約2,800、その他の地域に約2,000で合計25,300館となっている。このうち約4分の1の6,000館がアメリカ合衆国に集中している⁴⁾。歴史の浅い合衆国にどうして多くの博物館があるのだろうか。

これについて岩淵（1995）⁵⁾は次のような理由をあげている。“アメリカを建国した人々はヨーロッパからの移民であり自国がヨーロッパ諸国よりも劣っていると思っていた。そして余裕のあるものは少しでも祖国を立派な文化的な国にしようと努力したし、また新参者に対しても寛容であった。そして若い頃にチャンスを与えられて成功した者は、自分が高齢になると若者達にチャンスを与えて助力することを惜しまなかった。その結果、国家全体が建設的で教育熱心になり、富豪も中産階級もボランティア活動に積極的で、寄付を惜しまないというアメリカ人の国民性となった。”このことが合衆国で博物館建設が容易に行なわれた一因となっている。実際に合衆国へ旅行に行く場合、ミュージアムツアーが取り入れられている。公立、私立を含めてあらゆる分野で内容も充実している。

(2) 日本の博物館数と入館者数

表2は1996年3月博物館協会発行の「博物館研究」による日本の博物館園数である。総数は3,225館である。その数は毎年増加しており、平成6年度には、159館が新設され、39館が閉館し、120館の増加となっている。

日本の博物館の起源は、古代宝蔵と薬園と

いう形態で「^{ずしりょう}図書寮」があった。さらに756（天平勝宝8）年には「正倉院」が建立され儀式用具、日用品、薬品等を納め秘蔵されていた。また元興寺、東大寺、薬師寺などには観賞を兼ねて薬草が栽培されていたという。中世になると床の間や庭園と開帳、近世で

は出開帳、見世物と物産会という形態をとりながら、経済的利益のため大衆に公開する博物館であって、物自体の科学的な調査・研究がやっと始まったという段階であった。

博物館という独立した組織となるのは明治維新以降である。西洋型博物館が日本に取り

表2 平成6年度 博物館園数

(平成7年3月31日現在)

区分	登録				相当					その他					全体				
	公立	私立	大学	小計	国立	公立	私立	大学	小計	国立	公立	私立	大学	小計	国立	公立	私立	大学	合計
総合	68	11	0	79	2	7	0	3	12	0	36	7	0	43	2	111	18	3	134
郷土	36	6	0	42	0	6	1	0	7	0	386	27	0	413	0	428	34	0	462
美術	98	176	0	274	2	10	16	4	32	6	128	201	4	339	8	236	393	8	645
歴史	126	90	0	216	0	17	32	20	69	20	789	317	16	1,142	20	932	439	36	1,427
自然史	25	6	0	31	0	1	13	5	19	3	64	30	3	100	3	90	49	8	150
理工	18	13	0	31	1	7	3	4	15	1	63	46	0	110	2	88	62	4	156
動物園	0	2	0	2	0	18	9	0	27	0	35	12	0	47	0	53	23	0	76
水族館	4	5	0	9	1	5	21	3	30	1	18	13	0	32	2	27	39	3	71
植物園	1	1	0	2	1	2	9	6	18	3	31	21	4	59	4	34	31	10	79
動・水・植	0	0	0	0	0	6	9	0	15	0	5	5	0	10	0	11	14	0	25
合計	376	310	0	686	7	79	113	45	244	34	1,555	679	27	2,295	41	2,010	1,102	72	3,225

(博物館研究31-3、1996より)

表3 わが国における初期の博物館

博物館名	創立年月	特徴
東京国立博物館	明治5年3月 (1871年)	文部省博物館が湯島大聖殿で博覧会開催。書籍館も開催。東洋を含んだ日本古美術の総合的な博物館。
国立科学博物館	明治10年8月 (1877年)	前身は東京博物館。明治14年に東京教育博物館となる。1889年までの12年間、一日平均500人余の入館者があり、東洋一の教育博物館であった。
東京大学理学部 附属植物園	明治10年4月 (1877年)	前身は小石川植物園。江戸時代より栽培されている樹木や本草が今もある。日本植物学発祥の地。
東京都思賜 上野動物園	明治15年3月 (1882年)	もとは明治5年開園で山下町にあった。最初の動物園。日本を代表する動物園で、パンダをはじめとする多数の動物を飼育展示。
東京上野観魚室 (うおのぞみ)	明治15年3月 (1882年)	最初的水族館。動物園の一角に設置された。本格的な濾過循環装置をもたなかった。

表4 平成6年度 博物館入館者数
 <館種別・博物館法別・設置者別入館者数内訳>

区 分	国 立							公		
	有 料 館				無料館	合 計	有 料 館			
	個 人	団 体	無 料	小 計			個 人	団 体	無 料	
総 合	登 録 相 当 そ の 他	897,971	147,489	356,824	1,402,284	761	1,403,045	1,274,076 175,848 320,548	378,611 59,109 153,743	910,809 7,154 106,743
	小 計	897,971	147,489	356,824	1,402,284	761	1,403,045	1,770,472	591,463	1,024,706
郷 土	登 録 相 当 そ の 他							254,323 1,069,296	36,752 371,962	93,166 328,172
	小 計							1,323,619	408,714	421,338
美 術	登 録 相 当 そ の 他	717,333 1,368,825	35,024 170,954	203,461 318,393	955,818 1,858,172		955,818 2,057,940	4,645,516 238,049 3,109,147	1,617,799 140,940 559,337	3,035,228 597,021 1,434,110
	小 計	2,086,158	205,978	521,854	2,813,990	199,768	3,013,758	7,992,712	2,318,076	5,066,359
歴 史	登 録 相 当 そ の 他							2,900,449 1,243,290 13,465,535	828,374 547,569 5,593,213	1,645,668 140,739 2,701,357
	小 計	1,058,082	904,411	1,917,424	3,879,917	323,393	4,203,310	17,609,274	6,969,156	4,487,764
自 然 史	登 録 相 当 そ の 他	4,114 1,855	786 110	3,969 406	8,869 2,371	14,272 23,637	23,141 26,008	531,807 1,019,600	237,543 382,715	667,321 154,541
	小 計	5,969	896	4,375	11,240	37,909	49,149	1,551,407	620,258	821,862
理 工	登 録 相 当 そ の 他	1,652	549	10,355	12,556		12,556	962,308 193,285 2,873,027	308,865 54,040 643,333	595,115 55,872 1,304,129
	小 計	1,652	549	10,355	12,556		12,556	4,028,620	1,006,238	1,955,116
動 物 園	登 録 相 当 そ の 他							5,219,585 3,352,953	360,327 670,623	5,737,612 1,937,900
	小 計							8,572,538	1,030,950	7,675,512
水 族 館	登 録 相 当 そ の 他	664,900 683,488	135,693 191,249	3,591 57,802	804,184 932,539		804,184 932,539	514,994 1,040,650 3,947,055	90,010 306,185 509,683	75,332 375,038 1,096,910
	小 計	1,348,388	326,942	61,393	1,736,723		1,736,723	5,502,699	905,878	1,547,280
植 物 園	登 録 相 当 そ の 他	215,485 87,458	20,156 24,696	5,600 23,152	241,241 135,306	8,900	250,141 135,306	156,902 1,953,730	39,680 384,401	88,793 1,367,322
	小 計	302,943	44,852	28,752	376,547	8,900	385,447	2,110,632	424,081	1,456,115
動・水・植	登 録 相 当 そ の 他							2,640,730 230,289	305,684 41,702	3,506,974 106,570
	小 計					10,741	10,741	2,871,019	347,386	3,613,544
合 計		5,701,163	1,631,117	2,900,977	10,233,257	581,725	10,814,982	53,332,992	14,622,200	28,069,596

博物館の現状と地理学の役割

(単位 人)

立	私 立								総 評
	無料館	合 計	有 料 館				無料館	合 計	
			個 人	団 体	無 料	小 計			
小 計									
2,563,496	252,573	2,816,069	217,117	281,060	5,099	503,276	663	503,939	3,320,008
242,111	225,101	467,212	24,390	3,139	512	28,041		28,041	1,898,298
581,034	237,533	818,567	40,361	5,714	677	46,752	47,799	94,551	913,118
3,386,641	715,207	4,101,848	281,868	289,913	6,288	578,069	48,462	626,531	6,131,424
384,241	487,248	871,489	118,783	53,734	328	172,845	6,894	179,739	1,051,228
	44,780	44,780	39,964	17,293	2,207	59,464		59,464	104,244
1,769,430	990,909	2,760,339	121,049	65,320	8,337	194,706	11,177	205,883	2,966,222
2,153,671	1,522,937	3,676,608	279,796	136,347	10,872	427,015	18,071	445,086	4,121,694
9,298,543		9,298,543	6,100,423	1,510,905	870,542	8,481,870	12,758	8,494,628	17,793,171
976,010	7,131	983,141	47,396	9,020	21,684	78,100	12,962	91,062	2,030,021
5,102,594	77,786	5,180,380	2,805,140	890,752	369,064	4,064,956	114,946	4,179,902	11,418,222
15,377,147	84,917	15,462,064	8,952,959	2,410,677	1,261,290	12,624,926	140,666	12,765,592	31,241,414
5,374,491	1,107,364	6,481,855	2,999,760	1,800,055	172,267	4,972,082	152,217	5,124,299	11,606,154
1,931,598	84,726	2,016,324	2,759,998	1,703,073	32,942	4,496,013	271,905	4,767,918	6,784,495
21,760,105	2,658,674	24,418,779	5,128,057	2,009,016	960,518	8,097,591	988,872	9,086,463	37,708,552
29,066,194	3,850,764	32,916,958	10,887,815	5,512,144	1,165,727	17,565,686	1,412,994	18,978,680	56,099,201
1,436,671	503,896	1,940,567	114,255	60,014	14,712	188,981		188,981	2,129,548
			287,914	258,734	10,743	557,391	614,296	1,171,687	1,194,828
1,556,856	487,145	2,044,001	753,426	301,674	40,553	1,095,653	387,824	1,483,477	3,553,486
2,993,527	991,041	3,984,568	1,155,595	620,422	66,008	1,842,025	1,002,120	2,844,145	6,877,862
1,866,288	699,839	2,566,127	464,290	154,406	37,907	656,603	255,501	912,104	3,478,231
303,197	8,654	311,851	1,107,865	405,279	24,183	1,537,327		1,537,327	1,861,734
4,820,489	1,027,630	5,848,119	428,212	146,059	73,238	647,509	2,571,291	3,218,800	9,066,919
6,989,974	1,736,123	8,726,097	2,000,367	705,744	135,328	2,841,439	2,826,792	5,668,231	14,406,884
11,317,524	749,879	12,067,403	865,628	14,176	138,196	1,018,000		1,018,000	1,018,000
5,961,476	4,694,304	10,655,780	2,615,248	1,475,374	193,885	4,284,507		4,284,507	16,351,910
			1,645,084	238,735	55,233	1,939,052	525	1,939,577	12,595,357
17,279,000	5,444,183	22,723,183	5,125,960	1,728,285	387,314	7,241,559	525	7,242,084	29,965,267
680,336		680,336	759,882	125,058	27,716	912,656		912,656	1,592,992
1,721,873		1,721,873	8,253,729	2,610,409	301,655	11,165,793		11,165,793	13,691,850
5,553,648	320	5,553,968	3,511,300	1,618,627	42,724	5,172,651		5,172,651	11,659,158
7,955,857	320	7,956,177	12,524,911	4,354,094	372,095	17,251,100		17,251,100	26,944,000
	23,000	23,000							23,000
285,375	60,169	345,544	1,759,378	896,960	308,435	2,964,773		2,964,773	3,560,458
3,705,453	232,152	3,937,605	1,054,095	486,599	9,592	1,550,286	114,413	1,664,699	5,737,610
3,990,828	315,321	4,306,149	2,813,473	1,383,559	318,027	4,515,059	114,413	4,629,472	9,321,068
6,453,388		6,453,388	109,094	145,684	44,612	299,390		299,390	299,390
378,561	745,110	1,123,671	2,700,653	1,892,297	145,384	4,738,334		4,738,334	11,191,722
			1,197,290	3,738	146,325	1,347,353	33,834	1,381,187	2,515,599
6,831,949	745,110	7,577,059	4,007,037	2,041,719	336,321	6,385,077	33,834	6,418,911	14,006,711
96,024,788	15,405,923	111,430,711	48,029,781	19,182,904	4,059,270	71,271,955	5,597,877	76,869,832	199,115,525

(博物館研究31-3、1996より)

入れられ定着するようになった⁶⁾。すなわち万国博覧会と殖産興業に伴う事業としての博物館創設である。表3に明治初期に創設された博物館を示した。以後続々と博物館が創設されるようになる。

創設時期をみると、明治期に85、大正期に115、戦前(1945.8.15)までにつくられたもの271館の計471館⁷⁾で、これは全体の約15%にすぎず、残りの約85%は戦後に開館している。

また、設置者の内訳をみると、戦前には国公立が33%、私立が51.2%であったが、戦後にはこの割合が逆転し国公立59.5%、私立が35.2%となっている。特に、1960年代末以降多くの公立館が開館した⁸⁾。

これに伴って入館者数も増加している。1955年に2,617万人、1960年に3,686万人、1968年には5,843万人報告されている⁹⁾。平成6年度の入館者数を表4に示した。これによると同年の博物館入館者数は約2億人となっている。種類別に一館当たりの平均入館者数が最も多いのが動物園で約56.5万人、次いで、動・水・植物園で56万人、水族館の約49万人となっている。

また、観光白書(平成7年度版)によると、平成6年度の入館者数は、総合博物館では東京国立博物館が51.2万人、京都国立博物館が32.6万人、奈良国立博物館が45万人となっている。美術館では、国立西洋美術館が157万人、東京国立近代美術館が15.7万人、京都国立近代美術館が18.4万人、科学博物館としては、東京国立科学博物館の91万人となっている。これらの数字は年度による特別展や企画展の開催によって変動が大きい。その理由として、日本では、常設展にあまり人が集まら

ないことがあげられる。

Ⅲ. 博物館の利用について

合衆国に限らず、ヨーロッパにも多くの人々が何度も足を運ぶ博物館は多い。その例として大英博物館を取り上げてみる。また、日本の場合の例として国立民族学博物館を取り上げて、両者を比較してみた。さらに、利用という観点からアンケートを実施し、博物館がどれくらい利用されているのか、入館者が博物館に対してもつイメージや求める博物館像を尋ねた。そのアンケートの結果も検討した。

(1) 大英博物館

アシスタント・キーパーだったディヴィッド・M・ウィルソンによると、年間の平均入館者は約400万人で、1992年には631万人に達したと報告している¹⁰⁾。その内訳を年齢別にみると34才以下が44%でその内の学生の占める割合はほぼ半数(全体の18%)となっている。国別では、50%が英国人かアイルランド人で、北アメリカからの入館者は23%となっている。そして、入館者の64%はロンドン以外からの人となっている。さらに入館者の60%は大学卒か、同等の学識のある人といわれている。

次に案内書の売れ行きをみると、外国語で書かれたもののうち、日本語のものが年間38,000部で最も多く、フランス語の4倍の数となっている。これは、日本人のロンドンツアーのなかに大英博物館見学が入っている場合が多いことも一因となっている。

これらの数字から判断すると、海外からの入館者が多く、しかも若くて高学歴の人が多いことがわかる。また、シーズン別では夏が

最も多く、年間を通じて週末は混雑している。

次に、入館者に人気のある常設展示を調べると、ギリシア・ローマとエジプト部の部屋が人気が高く、とくにロゼッタ・ストーンとパルテノン彫刻は誰れもが注目している。さらに付属の図書館¹¹⁾内のマグナ=カルタも人気のある展示となっている。

サービス面についての大英博物館が行なったアンケートからは、売店は外国の旅行者に、レストランは英国人に、そしてアイスクリーム売場は若い人々に喜ばれているのがわかる。

大英博物館の特色は、常に低姿勢を守り、広く一般市民に奉仕していることを認識していることにある。誇りと慎みの気持ちをもってコレクションを展示したいと考えているから入館料は無料である¹²⁾。

(2) 国立民族学博物館

国立民族学博物館（以下民博）は世界諸民族の社会と文化についての総合資料館であり、民族学（文化人類学）に関する「研究博物館」である。大阪万国博覧会が開催された万博記念公園内に1977年（昭和52年）11月にオープンした。開館以後1996年3月までの総入館者数は6,836,983人である。（月刊みんぱく、1996年5月号より）

図1は年度（4月～3月）別の入館者数の推移を示したものである。開館2年目の1978年度が59万人を超えたが、それ以後は減少傾向にある。表5に年度別入館者数を示した。多くの博物館に共通している現象であるが、オープンして2、3年までに入館者数がピークとなり、それ以後は減少するという。

表6には個人と団体の入館者の割合を示した。80年代以降は団体客が6割を超えていたが、90年代に入ると両者の差は縮まっている。

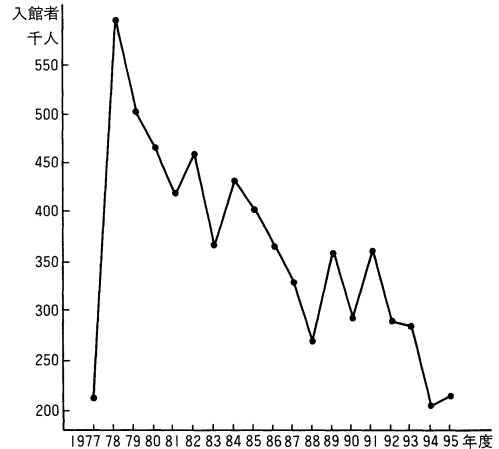


図1 国立民族学博物館入館者数の推移

注：年度は4月～翌年3月まで

77年度は11月から3月まで

94年度2月は閉館

95年度は2月までの入館者数

団体客の内訳をみると小・中学生が最も多くなっている。これは遠足・校外学習の場として多く利用されているためである。さらに月別入館者数の割合を表7に示した。この数字を見ると、10月、5月、11月の順に多く、遠足、校外実習などの実施時期と一致していることが判明する。逆に最も少ない月は1月で、1日平均では300人余りである。とくに阪神大震災に見舞われた1995年1月は、開館日が11日で入館者数が2,748人、1日平均250人で過去最低を記録した。

民博の特徴は展示と広報・普及活動にある。展示は常設展示と特別展示がある。常設展示は、地域展示とクロス・カルチュラル展示とで構成されている。またビデオテークの設置も特色の1つである。これは、入館者がビデオブースで自ら選んだビデオを鑑賞できる仕組みになっているが、利用者は年々減少している¹³⁾。

広報・普及活動としては「民博通信」、「月

表 5 国立民族博物館の年度別入館者数

(単位 人)

年 度	個 人				団 体				合 計
	一般	高・大	小・中学	計	一般	高・大	小・中学	計	
1977	101,144	19,780	26,245	147,169	18,259	8,110	37,659	64,028	211,197
1978	185,618	36,722	50,205	272,545	82,008	68,368	170,728	321,104	593,649
1979	137,998	29,692	41,480	209,170	59,496	63,914	169,727	293,137	502,307
1980	116,096	28,540	34,836	179,472	45,474	67,931	173,817	287,222	466,694
1981	108,980	24,844	31,493	165,317	36,988	55,058	161,958	254,004	419,321
1982	108,222	25,090	30,518	163,830	39,086	64,452	191,182	294,720	458,550
1983	79,109	20,490	20,010	119,609	30,063	57,787	159,707	247,557	367,166
1984	100,446	23,223	25,967	149,636	36,325	69,334	175,818	281,477	431,113
1985	86,665	20,885	21,643	129,193	33,721	77,258	162,263	273,242	402,435
1986	76,509	19,250	17,224	112,983	31,001	74,889	145,730	251,620	364,603
1987	69,328	16,901	13,438	99,667	27,705	61,228	140,228	229,161	328,828
1988	65,297	14,952	11,662	91,911	22,179	45,528	109,501	177,208	269,119
1989	115,794	22,732	17,393	155,919	30,324	55,612	116,378	202,314	358,233
1990	107,978	21,364	14,622	143,964	20,936	41,372	87,074	149,382	293,346
1991	138,511	28,231	15,762	182,504	23,498	53,857	99,875	177,230	359,734
1992	90,079	18,248	12,665	120,992	25,699	54,899	85,919	166,517	287,509
1993	110,056	18,619	11,797	140,472	21,974	44,021	77,501	143,496	283,968
1994	69,644	12,159	8,004	89,807	16,131	35,337	62,230	113,698	203,505

刊みんぱく」、「展示案内」等を提供している。さらに、みんぱくゼミナール、みんぱく映画会を開催している。そして友の会の会員になると多くの特典が得られる。現在の会員数は約2万人で、年会費が13,000円に値上りした(1995年10月)後もほぼ同数の会員数を維持している。

館内には、レストラン、ミュージアムショップもあり、会員には書籍やみやげものが割引価格で入手でき利用客も多い。

(3) 博物館の利用(アンケートの結果から)

現代の若い人々は博物館をどれくらい利用しているかを知るためにアンケート調査を実

施した。対象者は高校生と大学生で1995年11月、勤務校等でアンケート用紙を配布し、回答してもらった。そのため回答者の多くは、京都府、大阪府、滋賀県に在住している。

アンケートの内容を表8に、その結果を表9に示した。以下には明らかになったことをまとめた。

- ①博物館を一度も訪れたことがない人が1割強もいることは意外であった。
- ②大学生の3人にひとりはこの1年間に博物館を訪れているが、高校生の場合は9人にひとりであった。
- ③アンケートを実施した年が戦後50年にあた

表6 個人客と団体客との割合

(単位 %)

年度	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94
個人	69.7	45.9	41.6	38.5	39.4	35.7	32.6	34.7	32.1	31.0	30.3	34.2	43.5	49.1	50.7	42.1	49.5	44.1
団体	30.3	54.1	58.4	61.5	60.6	64.3	67.4	65.3	67.9	69.0	69.7	65.8	56.5	50.9	49.3	57.9	50.5	55.9

表7 国立民族学博物館月別入館者数の割合

(単位 %)

$$\left(\frac{\text{その月の入館者数}}{\text{各年度合計入館者数}} \times 100 \right)$$

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	入館者数
1989	8.2	14.2	4.7	2.9	4.1	8.6	20.5	17.8	5.6	2.5	3.3	7.6	358,233人
1990	8.8	13.3	6.0	3.6	5.2	6.3	18.9	16.0	5.1	2.5	4.1	10.3	293,346
1991	10.9	17.1	5.1	2.3	10.0	9.8	19.2	12.2	2.2	1.9	3.6	5.6	359,734
1992	9.7	18.1	6.0	3.0	5.3	6.8	19.0	13.9	4.0	2.5	4.0	7.6	287,509
1993	9.5	14.6	6.5	6.1	6.8	6.9	17.4	15.4	2.6	2.6	4.4	7.2	283,968
1994	11.3	17.3	5.6	4.0	4.6	8.1	22.7	13.6	3.2	1.4		8.3	203,505

(94年度2月は閉館)

ったため、印象に残っている博物館、興味をもったテーマ・催し、そしてこの1年間に訪れた博物館のいずれにも戦争に関するものが目立った。

- ④博物館のもつイメージとして、静かで、知識・教養が得られてためになるが、堅苦しくて入りにくいととらえている。さらに、おもしろいというイメージとそうでないというイメージとに大差がない。これは、入館者が自ら興味をもって行く場合はおもしろいと答え、学校行事などで半ば強制的に行く場合はおもしろくないと答えているためであろう。
- ⑤行ってみたい博物館としては外国の博物館が上位1～4位を占めた。さらに漠然と外国の博物館と答えた学生も数名いた。これは、日本の博物館よりも外国の博物館の方に興味関心をもっていると思われる。
- ⑥造ってほしい博物館としては、恐竜、動植

物、化石、絶滅しかけている動物等の生物に関するものが多く、次いで歴史、世界の料理、お菓子、おやつ、デザート等の食物に関するものが多かった。また、手で直接触れることができる、あるいは実体験のできるものを造ってほしいという意見もあった。これは日本の博物館の多くがガラス越しの鑑賞しか許していないことへの不満のあらわれであろう。

さらに少数ではあるが入館料が高いので安くしてほしいという回答もあった。

このアンケートは対象者が高校生と大学生に限られており、さらに回答者も355名と少数であるため偏った結果になったところもある。今後もっと幅広い年齢層、とくに高齢層を含めた人々に対するアンケートを実施し、それをもとに日本の博物館の利用について考察する必要がある。

表 8 「博物館の利用」に関するアンケート

1995.11 (辰己)

() 内に回答または○印をして下さい。 () 年 男・女

1. あなたがいままで利用した博物館について答えてください。

1) 「博物館」という名称のつくところへ何回くらい行ったことがありますか。 □

ア、一度もない イ、1・2回 ウ、3～5回 エ、6～10回
オ、それ以上 (約) 回

2) 「美術館」という名称のつくところへ何回くらい行ったことがありますか。 □

ア、一度もない イ、1・2回 ウ、3～5回 エ、6～10回
オ、それ以上 (約) 回

3) 「資料館」という名称のつくところへ何回くらい行ったことがありますか。 □

ア、一度もない イ、1・2回 ウ、3～5回 エ、6～10回
オ、それ以上 (約) 回

4) 特に印象に残っている博物館・美術館・資料館はどこですか。
()
また、興味をもったテーマ・催しについて書いてください。
()
()
()
()
()

2. あなたはこの一年間に行った「博物館」があれば書いてください。また、行った理由についても下から選んで記号で答え、具体的なテーマ・関心等があった場合はそれも書いて下さい。さらに、誰と行ったかも答えてください。

[博物館名]	[理由]	[テーマ・関心等]	[誰と]
()	()	()	()
()	()	()	()
()	()	()	()
()	()	()	()

[理由]

ア、展示内容に興味があったから イ、勉強、研究資料を入手するため
ウ、教養を深めるため エ、学校行事(校外学習等)のため
オ、友人とのレジャーのため カ、家族とのレクレーションとして
キ、理由もなしに立ち寄った
ク、その他 ()

3. 博物館に対してどのようなイメージを持っていますか。具体的に書いて下さい。

4. 今後、行ってみたい博物館、造ってほしい博物館を書いてください。

ご協力ありがとうございました。

表9 「博物館の利用」に関するアンケートの回答結果

回答結果355名（高校生 男子77名、女子135名、計212名 大学生 男子88名、女子55名、計143名）

(%)

		一度もない	1～2回	3～5回	6～10回	それ以上
1. 今まで利用した回数 1)～3)	博物館	11.8	38.2	24.5	20.3	4.7
	大学生	11.2	37.6	32.1	11.2	8.4
2. この1年間に博物館に 行った人数 高校生 25名 (12%) 大学生 50名 (35%)	美術館	29.0	36.7	20.0	10.0	4.2
	大学生	17.9	37.1	23.8	15.4	6.9
資料館	高校生	13.5	50.7	27.5	6.8	1.4
	大学生	14.8	35.7	30.3	12.7	6.4

(数字は回答数)

1. 4) 特に印象に残っているもの	興味をもったテーマ、催し				
1. 原爆資料館（広島、長崎）	71	1. 絵画、彫刻	32		
2. 京都市立美術館	24	2. 歴史、考古、民俗	18		
3. 国立民族学博物館	23	3. 戦争に関するもの（原爆、兵器など）	10		
4. 京都国立近代美術館	18	4. 自然史（恐竜、化石など）	8		
5. 京都国立博物館	12	5. 動物	7		
2. 一年間に行った博物館	理由		誰れと		
1. 立命館大学・国際平和ミュージアム	10	1. 展示内容に興味があったから	45	1. 友人と	48
1. 奈良国立博物館	10	2. 学校行事のため	22	2. 家族と	34
3. 京都国立博物館	9	3. 友人とのレジャーのため	21	3. 学校行事として	20
3. 国立民族学博物館	9				
5. 京都文化博物館	8				
3. 博物館のイメージ					
1. 静かなところ	48				
2. 知識、教養が得られ、ためになるところ	47				
3. 貴重なもの、珍しいものがたくさんあるところ	42				
4. 堅い	38				
5. 入りにくい、行きにくい	25				
6. おもしろい	21				
7. おもしろくない	18				
4. 行ってみたい博物館	造ってほしいもの				
1. 大英博物館	20	1. 生物に関するもの	11		
2. ルーブル美術館	11	2. 歴史に関するもの	9		
3. スミソニアン博物館	5	3. 食にかかわるもの	8		
4. メトロポリタン美術館	3	3. 手でさわられる、実体験できるもの	8		
4. 国立民族学博物館	3	5. 服飾に関するもの	6		
4. 京都国立博物館	3				

Ⅳ. 外国の博物館の見学例

海外旅行で訪れる博物館はその国の文化のバロメーターを示している。その土地、地域の顔といえるだろう。筆者が訪れた博物館のうちいくつかの印象に残ったものを表10にまとめた。

ここにあげた博物館はいずれも旅行ガイドブック等に記載されている有名なものである。そのため、それらの博物館を見学するだけでその国、地域についての多くの知識を得ることができる。時間的制約の多い海外旅行において、博物館を見学することは、その地域を理解する上で、とても意義のあることである。

表10 印象に残った外国の博物館

博物館名、見学年月	立地・特徴と感想
バンチェン博物館 (タイ・バンチェン) 1991. 7	遺跡に立地。B. C. 3000～4000年の彩文土器・青銅器・ガラス・人骨などの出土品を展示。ベトナムのドンソン文化に匹敵。発掘されたままの状態での保存・展示。むきだしの人骨や多くの土器に圧倒された。(写真1)
タスマニア博物館・美術館 (オーストラリア・ホバート) 1992. 7	都市型立地。絶滅した人種(タスマニアン・アボリジニ) ¹⁴⁾ 、生物(タスマニアン・タイガー) ¹⁵⁾ の展示。最後の女性の顔写真や生前のタスマニアン・タイガーのフィルム上映に感動した。(写真2)
ボノロングパーク (オーストラリア・ホバート) 1992. 7	郊外型。多くの有袋類を集めた私設の動物園。コアラやワラビ、エミューなど珍しい動物がいて、しかもコアラやタスマニア・デビルを抱くことができて感激した。
アンネ・フランク・ハウス (オランダ・アムステルダム) 1994. 8	遺跡に立地。1957年創立。アンネの隠れ家が当時のまま保存・展示。建物が狭いため入場制限されている。数分間のビデオ上映あり。(日本語版もある)。入館者は毎年50万人を超えている ¹⁶⁾ 。ミュージアム・ショップが充実。
パーニス・パウアピ・ ビショップ・ミュージアム (アメリカ合衆国・ハワイ) 1995. 3	郊外型。1889年創設。古代ハワイ王朝の貴重な資料の展示。プラネタリウムや動物の生態の紹介。太平洋研究センター、汎太平洋学会議の事務局 ¹⁷⁾ がある。カメハメハ大王着用の50万本の羽毛からなるケープや人間の歯が埋め込まれた器などの展示。日系人のボランティアによる親切な説明に感銘を受けた。(写真3)
ロイヤル・プリティッシュ・ ミュージアム (カナダ・ビクトリア) 1995. 8	都市型。1886年創設。カナダの博物館では展示する側と展示される側とで衝突が起こるといふ多くの課題をかかえている ¹⁸⁾ 。ここでは州の歴史と先住民の伝統・文化、さらに自然・植物・動物に関する知識をジオラマや実物、大標本で展示。特に先住民(ハイダ族)の暮らし、生活用具、トーテムポール、家屋などの豊富な展示に満足感が得られた。(写真4)
インド博物館 (インド・カルカッタ) 1996. 8	都市型。1875年創設。インドで最も古い博物館。地質の資料が豊富で各州毎に地質図と特徴的な岩石が展示されている。また人類学、動物、植物に関する資料もわかりやすく展示されていた。ジュート、綿、絹の生産から加工に至る小さな模型は子供にも親しみやすい。また広い中庭には噴水があり入館者が涼をとっていた。

また、見学者に対してもスタッフが親切であるという印象も受けた。館内には露出展示が多く、ミュージアムショップも充実していた。

一方、見学者のマナーもよく、大人のみでなく、子供達も見学慣れしているようであった。おそらく、博物館見学が学校教育の一貫として取り入れられているためであろう。中には、熱心にメモをとったり、スケッチをしている小学生の姿もあった。事前の指導も充分行なわれているものと察しがついた。

これらの外国の博物館見学から、日本の博

物館が参考にすべき点をいくつか見出した。それは、日本の博物館は「見せる」ことが中心でそこが地域理解や学習の場であるという認識が、設置者と見学者の双方に薄いのではないかということである。中には「見せる」ことも特定の人に限ってという博物館もあり、小さな子供たちがたくさん入館するのを拒む博物館もある。これらの点については学校教育との連携についてもっと密にすべきであるということを感じた。



写真1 バンチェン博物館



写真2 タスマニア博物館・美術館



写真3 バーニス・ビショップ・ミュージアム



写真4 ロイヤル・ブリティッシュ・ミュージアム

写真1～4は著者撮影

V. 博物館の活動例

—京都文化博物館とロンドン・ミュージアムを例にして—

博物館が実際にどのような活動をしているかを知ることは利用者側にとっても必要なことである。そこで、身近にある京都文化博物館と、共通点を指摘されているロンドン・ミュージアムを取り上げ両者を比較し、表11に項目別にまとめた。

この表にあるミュージアム・マーケティングとビジター・リサーチはあまり聞き慣れない言葉であるが、南・西山の研究¹⁹⁾によると、英国においては70年代後半になって導入されている。初めてこれを導入したのは70年代のアメリカだとされているが、英国では市立の博物館が導入し、その後公立のマンチェスター科学産業博物館、国立写真フィルム・テレビ博物館も導入したといわれている。

ミュージアム・マーケティングとは博物館事業部のことで特別展の宣伝やイベントの企画、資金集めなど一般市場に博物館を売り込むことを業務としている。これはマーケティングの専門知識が求められるので独立させて企業家の支援を得る方法が用いられている。最近、ビクトリア・アンド・アルバート美術館ではマーケティング・プロダクション部門を分離独立させ会社組織にしている。

一方、ビジター・リサーチとは博物館の利用者（または将来の利用者）が何を求めているかを調査する有効な手段である。これにはできるだけ多くの人々に聞いて、パーセンテージによる査定と、ある種のグループに詳しく理由を尋ねて査定するという2つの方法がある。これらによって得られた結果をもと

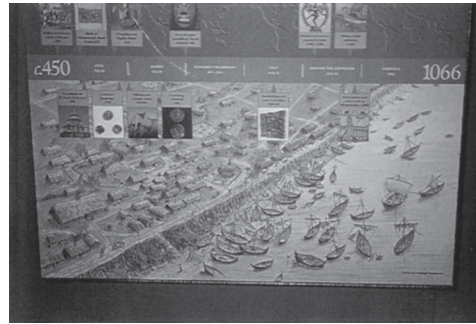


写真5 ロンドン・ミュージアム（著者撮影）
（ロンドンの歴史を順序よく展示している。これはノルマン・コンクエストまでの説明パネルである。）

にして、今後の活動のガイドラインをつかむことが可能になる。しかし、多くの資本と時間を要するし、人材の確保も難しい。そこで英国の場合、ビジター・リサーチを企業に委託したり、大学生・研修生を使ってリサーチを行い費用を安価にすましている。

日本の博物館にもこのシステムを取り入れられないものだろうか。

VI. 地理学と博物館

（1）地理学と博物館の関係

わが国における戦後の博物館の開館を分野別にみると、まず最初に手がけられたのが国土開発に伴った考古学分野からであった。ついで民俗資料館の建設が盛んになり、そして地方自治体による歴史編纂事業に関連して歴史を中心とした資料館へと発展していった。そのため博物館で働く学芸員も考古学、民俗学、歴史学を専門とする人達が求められた。したがって、これらの分野と博物館との関係について述べられた文献は数多くみられる。しかしながら、地理学と博物館の関係について

表11 博物館活動の比較

	京都文化博物館	ロンドン・ミュージアム
内 容	京都の歴史と文化をわかりやすく紹介する総合的な文化施設	ロンドンの先史時代から現代までの推移を内外の訪問者に理解してもらうための総合的な歴史博物館
創 立	1988年（平安建都1200年事業の一つ）	1976年
常設展示	歴史・民俗・美術・工芸・考古のテーマを設定し、模型・AV 機器、パネルを使用しわかりやすく展示 フロア毎に内容は異なる 別館 [民俗・美術・工芸・考古] 2階 [京都の歴史と文化] 3階 [現代京都の美術・工芸]	常設展示のテーマは11コーナー 豊富な実物、実物大の模型、縮小模型、写真、各種の図とそれぞれに付された解説 [ローマ時代の石造建造物、1660年のロンドン大火を再現する装置、ロンドンの町の発展を時代ごとに展示、]（コンピュータを使用した展示はない、今後もその予定はない）
特別展	4階で開催（不定期）	パブリック・サービス部にある Production Department が担当
文化事業	映像ホールで日本映画の上映 映像ギャラリーで上映映画のスチール写真、ポスターの展示 その他、音楽会も開催	
教育事業	講演会を開催	94・95年のプログラム Teachers Courses 8本 一般 3本 夜間 4本 学生のためのコース 年間4回
その他	友の会あり コンピュータによる情報サービス 写真撮影禁止	友の会あり ミュージアム・マーケティングとビジター・リサーチ 写真撮影許可
運 営	(財)京都文化財団	公立一割は国の交付金や奨励金 企業からの寄付は6%
紀 要	「朱雀」	
館内売店	コーヒーションショップあり 1階「ろうじ店舗」 3階ミュージアムショップ	ミュージアムショップ—豊富な文献・絵はがきなどのミュージアムグッズの販売
時 間	常設展 10:00~20:30(一部18:00まで) 特別展 10:00~20:30	火~土 10:00~17:50 日 12:50~17:50
休館日	毎月第3水曜日・12月28日~1月1日	月曜日 (bank holiday Mondays を除く)
料 金	500円 (一般)、学割あり、身障者は割引あり、特別展は別料金	3ポンド (購入日から3ヵ月有効)
施 設	身障者用設備あり 車いす貸出しもしている。	身障者用施設、Nursery Garden、Baby care あり

て論じられたものはほとんどなかった。そのようななかで、「地域」と博物館の関係について、あるいは地理学が博物館になしえた役割について正面から論じたのが橋本^{はしもと} (1994)²⁰⁾である。彼女は日本近代史専攻で葛飾区郷土と天文の博物館に勤務しているが、博物館が80年代に入り、「地域博物館」として誕生し、保存、展示、教育活動において一定の評価をあげているにもかかわらず、「地域」の研究がきちんとなされているか、「地理学的」視点をもって展示が行なわれているか、などを検討したうえで、以下のように地理学と博物館のあり方を論じている。

- ①地域博物館では「地域」の研究が必須かつ有効であるが、現行の地域博物館において地理学が市民権を得ていない。
- ②学芸員の大半は考古学・民俗学・歴史学を専攻とする人たちであり、地理学専攻の人はたいへん少ない。
- ③「地理学」こそが人間が関係するすべての分野で地理学的手法と成果が活用されている。
- ④「地域」の地理的環境を明らかにし、現在の「地域」の解明をすべきであるが、単にその調査法やデータを提供するだけである。また、その展示においても初歩的な手法に留まり、一步踏み込んだ調査やそれに基づく展示はない。
- ⑤「地理学」的視点で建設されたのが葛飾区郷土と天文の博物館である。
- ⑥この博物館では、「東京低地のなりたち」、「河川の変遷」、「キャサリン台風」、「水塚と母屋」の四展示は「かつしかと水」における地理的手法を駆使した展示であるが、しかしハード面でのトラブルが多い、展示

の主旨が理解できない、さらに見にくいなどの課題もあり、展示についての改良の余地を残している。

- ⑦学校教育と博物館、社会教育と博物館との関係でみると、郷土学習のために博物館を見学するケースは多い。しかしながら、郷土学習は現在の郷土の姿を対象としているのに対して、博物館がこれに対応しきれていない。一般に博物館では郷土学習に必要とされる現在の「地域」の展示は手付かずの場合が多い。

橋本は以上のことを視野に入れた展示構想を上記の博物館で展開させたいと述べているが、さらに筆者は、これまでの地理学専攻者の姿勢にも問題があるように感じている。これについては後で指摘したい。

(2) 博物館における地理学の貢献度

地理学が博物館建設や展示内容に貢献できるものと考えられる代表例は地域博物館である。これまで実際に建設された事例として、大垣市の輪中資料館²¹⁾がある。この資料館は、設計段階から輪中の研究で著名な伊藤安男がスタッフの中心となって建設された。主な内容は、輪中地域の代表的景観である水屋や堀田の分布図、地形分類図、古地図や地籍図を用いて明治期の輪中の復元を試みた。その他にも「地理学的」手法を随所に取り入れた数少ない博物館である。とりわけ、屋外に復元して展示した堀田には苦勞されたらしい。

このように地域博物館の建設や展示に地理学が必要であることは理解できても、実際には地理学の貢献度は低いようである。その最大の理由は、現役の学芸員の中に、地理学専攻出身者が非常に少ないことがあげられる。このため、例えば貴重な古地図、絵図等が展

示されている、それらを使って具体的に分析された事象の説明や、当時の地域の実態などが何ら示されていない。地理学からみれば「宝の持ち腐れ」といわざるをえない博物館が出現することになる。また、古いものだけを展示すれば良いという郷土資料館も多く生まれている。

こうした現状を少しでも改善するためには、地理学側からの取り組みにも目を向けなければならぬだろう。その一つとして、これまで歴史学専攻生を中心に組まれてきた学芸員課程のコースを地理学科または地理学専攻生用のカリキュラムにも取り入れるべきである。地理学出身者の多くが学芸員の免許を取得し、博物館で仕事ができるようになることを強く希望する。さらに、大学内に博物館を設置するにも一つの方法であろう。海外では主要大学のほとんどが一つないし複数の施設を有している。これに対して国内には国公立を含めて47館（資料館を含む）²²⁾しか存在していない。

生涯学習の気運が高まり、そのなかでも博物館の担う役割はますます重要になる。それに対応するためにも、博物館の中での人づくりが急務である。その人づくりの際、これまでのように歴史・民俗学中心でなく、地理学からも参加したい。とりわけ、地域に根ざした、地域に貢献できる博物館、郷土館等を開設したり拡充する場合には地理学関係者が主導権を握っていくべきであろう。そのためには、地理学専攻者にもう一つの技能、すなわちモノを見る目が必要となる。

さらに、入館者が希望する博物館をめざすために必要とされるビジター・リサーチの分野にも地理学の得意とするフィールドワーク

を取り入れることにより、地理学関係者が博物館に貢献できる一つの方策であると考えている。

今回、日本地理学会の中に、国立地図学博物館設立の動きがあることは期待すべきことである。

VII. 課題—多くの人が楽しみながら学ぶ博物館の建設を—

外国の博物館を見学して気がつくことは、子供から年配の人までが、団体、家族連れあるいはひとりで、静かにしかも熱心に見学していることである。特に週末や夏休みになると有名な博物館の前には入館者が列をなしている。

日本ではこれまでツタンカーメン展やモナ・リザ展（130万人）などで長蛇の列が連日続いたが、いずれも特別展であった。

Ⅲで示したようにアンケートの結果などから次のような課題が明らかになった。

①入館料を無料あるいは安価にする。

これは日本の博物館の場合、経営が困難なものや、大口のスポンサーが無い場合が多くすべての館を無料にするのは困難である。

②開館時間の延長

外国の博物館では曜日によって閉館時間を遅くして、勤めを終えたあとのサラリーマンにも利用できるように配慮している例も多い。しかし日本の場合、勤め帰りに博物館へという習慣づけができていない。その例として神戸市立博物館では、金・土曜日に時間を延長しているが、100人程度の入館増にすぎないという結果からもうかがえる。このような状態では、梅棹が提唱するように“デートは博

博物館”というライフスタイルが日本人に定着するにはかなりの時間を要するであろう。

③日時指定鑑賞券の発売

有名な特別展になると入場者が殺到し館内も混雑する。京都市美術館の記録によると1965年の「ツタンカーメン展」が107.5万人、1960年の「ミロのヴィーナス展」が89万人であった。このため長時間待って入場しても、館内の混雑と疲れのためにゆっくりと鑑賞できなかったという経験をした人も多かった。これを解消するために導入されたのが、日時指定鑑賞券である。これは神戸市立博物館で1996年4月に開催された「オルセー美術館展」で導入された。これを機会に各地の博物館でこの方法が導入されることを期待したい。

④ミュージアムショップや喫茶店・レストランの充実

外国ではおいしいコーヒーを飲むために、毎日のように博物館の喫茶室へ通う人がいる。そのついでに展示を見る来館者も多いという。この場合、入り口は別々に設けられていて喫茶室だけの利用も可能である。筆者も訪れたルーブル美術館では美術関係の書籍、ポストカード、ポスター等が備えられ、しかも一带はコーヒーの香りに満ちていたのが印象的であった。またアムステルダムにあるゴッホ美術館内のレストランは、セルフサービスで、ビールも備えてあり、自由に飲めるようになっていた。

⑤博物館の立地

遺跡に立地するもの、郊外に立地するもの、都市の中心に立地するものがある。入館者としては交通の便に恵まれていることが望ましい。近年入館者が多いのがデパートでの美術展・企画展である。通勤や買物に便利なター

ミナル駅に隣接したデパート内で美術展示等が行われているのは、働く人にとっても平日の利用が可能でとても好都合なことである。

⑥博物館はサービス施設である

開かれた博物館にするために木目の細かいサービスを実行し、多くの人々が喜んで参加するような工夫、アイディアを取り入れて、博物館を中心とした複合娯楽施設をという野田²³⁾の考えも大胆な企画でもしろうい。

⑦ミュージアム・ティーチャーの設置

日本の博物館には残念ながらこの職はない²⁴⁾。生涯教育が叫ばれている今日、社会教育の面からも博物館は多くの人々に活用される場である。そのような教育の場で学芸員であり、教職の免許をもつミュージアム・ティーチャーを常時置いて、多くの入館者に説明していけば理想とする博物館に近づけるのではないだろうか。

VIII. おわりに

現在の博物館の数や利用、活動等について外国と比較しながら考察した。また、地理学と博物館との関係についても論じた。以下にはこれまでに明らかになった点を要約した。

- 1) 現在世界各地には25,300館の博物館があり、最も多いのは合衆国の約6,000館である。また日本は3,225館ある。日本の場合、そのうちの約44%が歴史系の博物館で1,427館ある。また1館当たりの年間平均入場者で最も多いのは動物園(約56.5万人)である。博物館の数は年々増加しているが、1館当たりの入館者数は横ばいか減少傾向にある。国立民族学博物館の入館者数も年々減少している。

- 2) 大学生・高校生を対象としたアンケート結果からは、博物館の利用は修学旅行・校外学習時が大半で、それ以外の利用が少ないことが判明した。また、博物館のイメージとしては、静かで教養が得られ貴重なものが多く展示されているところという反面、堅く、入りにくくおもしろくないというイメージを抱いていることがわかった。
- 3) 海外旅行を利用して訪れた博物館の印象は、入館者に対して好意的であり、館員も親切であった。また、写真撮影に対する制限も少なく²⁵⁾、展示物をより身近に感じることができた。これはその国の国民性やライフスタイルに起因していると思われる。
- 4) 博物館活動において地理学の役割は歴史学や考古学、民俗学に比べて小さい。しかし、郷土館や地域の博物館において、現在の郷土の姿をきちんととらえ、地理学的手法を用いて「地域」の展示をすることができるのは地理学である。
- 5) 海外の博物館の活動例などから、地理学が博物館活動にさらに貢献すべきであると考えた。その理由として、入館者が求める理想の博物館建設のためにも、ビジター・リサーチを取り入れ、ミュージアム・ティーチャーを置くことが急務であり、それらの分野での地理学関係者の活躍が期待できるからである。

〔付記〕小稿は平成7年度立命館地理学会に於いて発表した内容に加筆・訂正したものである。鈴木富志郎先生をはじめ立命館大学地理学教室の諸先生には発表の機会を与えて下さいました。また、神戸市立博物館の喜谷美宣先生、国立民族学博物館の宇治谷恵先生には貴重な資料を提供していただきました。さらに、滋賀大学の小

林健太郎先生には、終始御指導いただきました。この紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

注

- 1) 伊藤寿朗「日本博物館発達史」(伊藤寿朗, 森田恒之編『博物館概論』, 学苑社, 1978年取), 10~11頁。
- 2) ムウセイオンの成立については、プトレマイオス1世ソーテル説とプトレマイオス2世フィラデルフス説があるが、現在では前者に傾いている。モスタファ・エル＝アバディ著, 松本慎二訳『古代アレクサンドリア図書館一よみがえる知の宝庫一』, 中公新書, 1991, 65~68頁。
- 3) 第1回万国博覧会は1851年5月1日にロンドンのハイパーク内の水晶宮で開催された。
- 4) 岩淵潤子『美術館の誕生 美は誰のものか』, 中公新書, 1995, 19~20頁。
- 5) 前掲 4), 134頁。
- 6) 博物館と日本語に訳して広めたのは福沢諭吉である。1871年博物館が創設され町田久成や田中芳男が活躍した。
- 7) 前掲 1), 92~93頁。
- 8) 伊藤寿朗『ひらけ, 博物館』, 岩波ブックレット, 1991, 3~5頁。
- 9) 前掲 1), 150~151頁。
- 10) ディヴィッド・M・ウィルソン著, 中尾太郎訳『大英博物館の舞台裏』, 平凡社, 1994, 170頁。
- 11) 大英博物館付属図書館は1996年にセント・バンクラスに移転する予定である。
- 12) 1974年に政府の指示で入館料を取ったことがあるが、この時3か月で入館者が60%減少した。前掲10), 197頁。尚合衆国の主要な博物館も無料で年中無休である。
- 13) ビデオテープのリクエスト数をみると1978年度の215,543回が最も多く1987年度までは年平均183,000回であったが、その後は減少し100,000回を割っている。
- 14) 最後の純血のタスマニア人・アボリジニはTruganini という女性で1876年死亡した。Peter Collenette: TASMANIA HISTORY, 1990, D&L, 59頁。
- 15) 背中にトラのような筋があるがトラではなく肉食有袋類。1961年に目撃されたのを最後に今では絶滅したといわれている幻の動物。
- 16) アンネ・フランク財団, ヤンレンセ・ボーンストラ, マリーヨセイ・ラインダース編, 長山さき訳『アンネ・フランク・ハウス ものがたりのあるミュージアム』, Sdu 出版, 1990, 80~81頁。
- 17) 篠遠喜彦・梅棹忠夫「太平洋の研究センター」

- (梅棹忠夫編『博物館の世界—館長対談』, 中公新書, 1980所収), 251~271頁。
- 18) 関 雄二「異文化理解としての博物館—「文化」を語る装置—」(藤巻正巳他編『異文化を「知る」ための方法』, 古今書院, 1996所収), 229~231頁。
- 19) 南 博史・西山弥生「博物館における教育活動とマーケティング活動—京都文化博物館常設展示改訂にむけての英国博物館調査—」, 京都文化博物館研究紀要朱雀第7集, 1994, 45~62頁。
- 20) 橋本直子「博物館と地理学」歴史手帖, 22-1, 1994。
- 21) 大垣市輪中館, 海津町歴史民俗資料館, 輪中の郷の3館である。
- 22) 西野嘉章「大学に博物館ができる—東京大学総合研究博物館」, 科学66-5, 1996, 333~334頁。
- 23) 野田泰通『ザ・展覧会』, 東方出版, 1995, 11~13頁。
- 24) 欧米の博物館にはミュージアム・エデュケーション部があるが日本にはない。ミュージアム・ティーチャーを置くように陳情したがうまくいっていない。民博でも考えているが制度上の制約が多く、またボランティアについても実際には難しい。中川成夫・梅棹忠夫「博物館学の基礎課程」(梅棹忠夫編『博物館と情報—館長対談』, 中公新書, 1983所収), 69~88頁。
- ボランティアに関しては、美術ボランティアを採用している北九州市立美術館がある。また立命館大学国際平和ミュージアムにも若干取り入れられている。
- 25) インドの主要な博物館では写真撮影の場合、料金を払って許可を得なければならない。